

戦後アナキズム運動の全容を知る唯一の資料！

(1946—1980)

戦後アナキズム運動資料

全8巻
別冊1

本資料集には

今日すでに入手困難である

戦後版「平民新聞」ほか

戦後日本アナキズム運動に関する

基礎史料を収める

また 戦前のアナキズム運動史を

補完する史料としても重要

推薦

解説

大原緑峯
小松隆二
玉川信明
向井孝

遠藤斌
大原緑峯
小松隆二
杉藤二郎
高島洋
三原容子
向井孝

緑蔭書房

刊行のことば

アナキズム運動は近代日本の労働運動・社会運動史に大きな足跡を残している。しかしアナキストの全国連合組織が実現したのは、一九四六年の日本アナキスト連盟の結成（東京）が最初である。そしてその中央機関紙名として日本社会運動史に不滅の『平民新聞』を採用、文字通り戦後のアナキズム運動の変遷・動向を如実に反映していく。

本資料は戦前・戦後のアナキズム運動の関係者の全面的な協力のもとに、一九四六年から一九六〇年代末までの四半世紀を対象に、『平民新聞』『アナキストクラブ』（終刊一九八〇）などの新聞、『アナキズム』『ひろば』などの理論誌やパンフレットを網羅した。戦後のアナキズム運動の全貌の解明・研究に不可欠の基本資料であり、世界のアナキズム運動の動向や日本アナキズムの史的な傍証資料としても豊富な内容をもつ。

今回、本新聞・雑誌の原本を所蔵する図書館等は皆無であり、この機会に広く活用されることを願う次第である。

緑蔭書房

推薦のことば

戦後版『平民新聞』の復刻を喜ぶ

小松隆二 慶応大学教授

アナキズム（運動）ほど誤解と偏見をもって見られてきた思想や運動もめずらしい。つい最近も、全国紙の一つに同紙でも新左翼通で知られてる著名な記者の解説記事が載っていたが、そこで爆弾・火炎瓶などを用いるテロリズムをアナキズムと呼ぶ古色蒼然たる理解がまかり通っているのに驚いた。そういう認識しかできない人には、ハーバート・リードあたりの著作をすすめることにしているが、この度日本の事例や文献でも、アナキズムの認識を深めてもらえる文献が復刻されることになった。一連の戦後版『平民新聞』および関連紙がそれである。そこからは、爆裂弾やそれによるドス黒い血の血においては、平和、人道、みずみずしい人間性そのものの発露である生きた血のにおいをかぐことができるだろう。

すでに入手困難になった戦後版『平民新聞』が普通の人が普通の生活をする中で手にできるように、普通の図書室・資料室にも具備されることを願っている。

一般教養としてのアナキズム

玉川信明 評論家

私はかつて中国の社会運動について調べたことがあるが、その際戦前アナキズムの「黒色青年」や「労働運動」をひっくり返してみても、大いに役立った。そこに数多くの関連記事があることを発見し、著作に利用することができたからである。

そもそも日本の社会派知識人の最大盲点の一つは、自主管理、共同体、エコロジズム、オルタナティブ・テクノロジ、果てはヌーディズム、自然食のような今日一見斬新な装いをもった運動のほとんどが、海外経由のために、もとをただせばアナキズムにつながるということを知らないことである。アナキズムをなめてはいけない。一般教務として、キチンと勉強する必要がある。

そのアナキズムが、日本ではどう展開されたのか？ ことに戦後は、何が問題になっていたのか？……を知る必要がある。その場合やはり重要な手がかりになるのはアナキズムであるが、アナキズムにおいては少数グループ活動を旨とし、ことに戦後は「平民新聞」初め各種の新聞雑誌が刊行された。収集は到底個人の手に負えない。ところがそれら既に散逸した多くの貴重な文献を緑蔭書房が全八巻本として資料覆刻してくれるというのだから、これはありがたい、大いに役立つに違いない、と今からこころ愉しみにしている。

日本アナキスト聯盟機關紙

発行所 東京新聞編輯部
東京市芝区新橋七丁目十二 文芸ビル金庫内
電話 (43) 1121 1123 諸
編輯兼発行人 近藤 隆三
定価 一冊 30 銭 送料 5 銭
半年約 7 円 50 銭 一年約 15 円

平民新聞

★自由なくして平等なく 平等なくして自由なし
★國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す

ハッと灯いた赤信號

自分の手に革命の手綱を

この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

赤子

赤子の啼き声は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。



中央の強大な権力

中央の強大な権力は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

機用の上り下り

機用の上り下りは、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

鐘

鐘の音は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

文明の犯罪と國民の審判

文明の犯罪と國民の審判は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

裁判録

裁判録は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。この赤信號は、日本の革命の前途を示すものである。自由なくして平等なく、平等なくして自由なし。國家の名によろうと民衆の名によろうとワレラは一切の強權に戦ひを宣す。

袖見本縮小(第一巻所収より)

アナキズムの 前駆性

向井 孝 詩人

アナキズムはその時代の主流ともいうべき思潮や体制とは、いつも対峙するものとして、もつとも盛んだったときも、傍流の小数派でしかなかった。

また、いまも大勢を占めるマルキスト史家からは、ほとんど無視・黙殺されることによって、アナキズム運動はとつきの昔に、歴史の波の中へ姿を消したものとして、いま取扱われている。

だから、戦後にアナキズム運動が確かに存在し、アナキストを名乗るごく少数の無名者によって、機関紙などが堂々と続けられたことを知る人は、おそらく稀有に等しい。

にもかかわらず、ここ数十年、思わぬところでアナキズムが言われたり、それ以上に、いま私たちが日常で見聞する——反核・反公害・反差別などにかかわる——さまざまな市民・住民運動のなかに、おどろくほどアナキズム的なものを見出すことができる。また、いままで大なり小なり、いわゆる運動を骨がらみにしてきたマルクス主義的な「統一と団結」に代わる、「自由合意・連合・自己責任」が普通の原理として一般化していることに気付く。

改めてふり返ってみると、それは六十年の安保闘争よりも七十年の全共闘・ベ平連運動、さらに

それよりも昨今の八十年代の諸運動の中で、いっそう明らかになってきた戦後の諸運動を特徴づける「趨勢」と言つてよいだろう。

そしてまた、そのような、「いまの状況」がはからずも明らかにするものは、四十年前から、アナキスト達を書き、語り、動くことで展開しようとしたことが、ようやくこのごろ人々の耳にとどきだしたということでもある。

ところで、こんど刊行される『資料集成』の「戦後のアナキズム運動」に、ほとんどかわつてきた一人として、いま改めてふり返ると、いつも小数で常に非力でしかなかった私たちの運動が成し得たことは、いわば、「後家のガンバリ」にも似て、時流との妥協を拒み、アナキズムにこだわることで、存在としての孤豊を守ることであった。

そして僕個人のことでは、そのためにも、そのときどきの行動を創り出し試みることに、ただひたすらで、いま思えば、そのことが意味するものを、ほとんど省察するひまもない日々だった。

『資料集成』はいまそれらを、現在の状況に引き出すことによって、当時の私達がもつ未熟さや硬直と共に、アナキズムの——五年、十年、二十年先きとつながる前駆性の意味を、何よりも明らかにするものと言えらるだろう。

戦後史の フィッシュ・ミール

大原緑峯 作家

戦後四十三年、「もはや戦後ではない」といわれたから三十二年、戦後は戦前の二倍を越えるようになった。

戦後史の中心コンセプトは、いうまでもなく民主主義で、右も左も民主主義を謳いあげた。そして民主主義は数の論理で貫かれている。多いことはよいこと、なのだ。

民主主義は少数派の尊重を建前に掲げるが、実際の姿は多数派の専横で、これは政治、経済のみならず、社会、文化全般にわたつてそうなのだ。

数の論理ではなく、人間の自由を原則にするアナキズムが民主主義社会で常に少数派でしかありえないのは見易い道理だ。戦後のアナキズムもまた例外ではない。

戦後のアナキズムが戦後社会にどれほどの勢力を占めたか、といえば微々たるものであつたらう。数の論理でいえば取るに足らない勢力だ。

この少数派の運動資料をあえてここに集成するのは、数の論理に頭を下げず、人間の自由を頑固に守ろうとした、もうひとつの異端の戦後史が語られているからで、それはいま流行のグルメでいえば家畜のエサとなるフィッシュ・ミールのようなものだ。口だけおごつた現代人には合うまいが、地の塩にひとしく、栄養はたぶん満点である。

1 平民新聞

自由共産新聞

自由共産新聞九州版

平民新聞九州版

無政府主義会議

日本社会運動史において不滅の位置を占める『平民新聞』を継承し、戦後、はじめてアナキストの全国組織として結成された日本アナキスト連盟の機関紙。戦後アナキズム運動の動向を正確に反映しており、同時に欧米アナキズムの思潮やアナキズム運動史・先駆者の足跡の紹介にも多く紙面を割いているのも特徴。平民新聞は通巻一五四号で終刊となり、新たに一九五一年『アナキスト連盟』の機関紙として『自由共産新聞』に受け継がれる。同時に『自由共産新聞』九州版（九州総局発行）が刊行されたのち、『平民新聞』（平民新聞社）に改題。『無政府主義会議』は、一九四八年『平民新聞』の第二機関紙として発刊。『平民新聞』が運動情報紙であるのに対し理論討論評論紙の性格をもつ。

2 クロハタ

自由連合

平民新聞停刊後、一時期の運動の停滞を経て、一九五六年の歴史的なストーリー

批判を契機に再び運動が活性化した時にアナキスト連盟機関紙『クロハタ』として発刊。後『自由連合』に改称。スターリン批判・ハンガリー事件についての素早く的確な報道・論評は先駆的、反核の主張も早くから掲げる。バクーニン・大杉らすぐれた先人の業績も広く紹介。

3 アナキストクラブ

無政府新聞

無政府主義運動

岩佐作太郎・水沼辰夫らを中心に、運動方法、組織形態などに異見をもつメンバーが日本アナキスト連盟より別れ、一九五一年『日本アナキストクラブ』を結成した。その機関紙として発行、クラブ関係の活動・主張を知る上で唯一の資料。のち無政府新聞に更に無政府主義運動に改題している。

4 アナキズム

アナキスト連盟の全国的な機関誌として一九五二年一二月に創刊。アナキズムの運動的思想的深化・普及を計るため大衆討議の場としての雑誌を旨とした。連盟員の論文・報告の他、世界各国のアナキズムの情報紹介、スペイン革命史など外国のアナキズム文献の翻訳紹介を定期的に行っているのも特徴。五号より特集形式の編集をとっている。

5 リベルテ

アナキズム文芸誌として広島で刊行されていたものを名称と巻数だけを引き継ぎ、第10号よりアナキズム連盟の理論機関誌として大阪で刊行。並行して刊行されていた理論誌『アナキズム』とともに廃刊後『ひろば』に受け継がれる。

6 ひろば・ヒロバ

無政府研究 アナキズム

反強権主義的、非国家主義的、自由社会主義的な政治・経済・哲学・芸術の諸潮流をふくめた第三勢力の機関誌をめざし一九五五年発行。その後、無政府研究と改題し、連盟内の学習・研究会活動の回転軸として自由社会主義思想の研究と普及を図る。一九六一年からは日本アナキスト連盟の理論誌として衣がえした。

7 アフランシ

松尾邦之助を軸に結成した自由クラブを母体とし、石川三四郎、新居格ら戦前の自由人と辻まこと、大沢正道ら戦後派が参集した。自由クラブは結成時、「アフランシスムの宣言」という思想宣言を発表、近代主義の良識的でモダレートな「自我」や「個人」の虚構を超える方向を目

ざした。今日のポストモダン主義の先駆的雑誌。

8 連盟ニュース

地協ニュース

労働と解放

労働運動・他

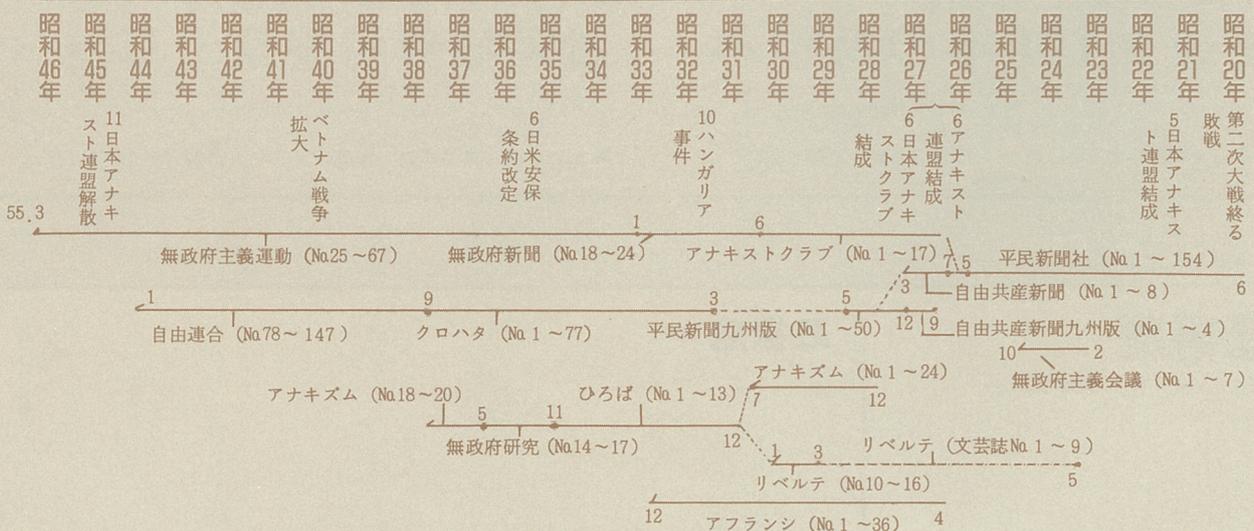
アナキスト連盟や各地協が連盟員や新聞読者に対し、運動やカンパ等の呼びかけ・提案・会合の連絡・同志の近況などを小さなヒラ・パンフの形で配布した。運動の実態を理解する上で貴重な傍証資料である。合せて阪神労働者懇談会の雑誌『労働運動』全六冊及び『労働と解放』全七号も所収。

別冊

総目次・解説

戦後アナキズム運動資料の各巻収録一覧

- 1 平民新聞（日本アナキスト連盟） 昭和21年～昭和26年 全154号
自由共産新聞（アナキスト連盟） 昭和26年～昭和27年 全8号
自由共産新聞九州版（九州自由共産新聞社） 昭和26年 全4号
平民新聞九州版（平民新聞社） 昭和26年～昭和28年 全50号
無政府主義会議（日本アナキスト連盟） 昭和23年～昭和24年 全7号
 - 2 クロハタ（日本アナキスト連盟） 昭和31年～昭和44年 全147号
自由連合（日本アナキスト連盟）
 - 3 アナキストクラブ（日本アナキストクラブ） 昭和26年～昭和55年 全67号
無政府新聞（日本アナキストクラブ）
無政府主義運動（日本アナキストクラブ）
 - 4 アナキズム（アナキスト連盟） 昭和27年～昭和30年 全24冊
 - 5 リベルテ（アナキスト連盟） 昭和29年～昭和30年 全7冊
 - 6 ひろば・ヒロバ（ひろばの会） 昭和30年～昭和34年 全13冊
無政府研究（P・B・Kの会） 昭和34年～昭和36年 全4冊
アナキズム（日本アナキスト連盟） 昭和36年～昭和37年 全3冊
 - 7 アフランシ（自由クラブ・アフランシ社） 昭和26年～昭和32年 全36号
 - 8 連盟ニュース・地協ニュース（日本アナキスト連盟） 昭和24年～昭和43年
労働と解放・労働運動（阪神労働者懇談会） 昭和35年～昭和43年
- 別冊 総目次・解説（遠藤斌・大原緑峯・小松隆二・杉藤二郎・三原容子・向井孝・他）



戦後アナキズム運動資料・年表一覧

(1946—1980)

戦後アナキズム運動資料

全8巻
別冊1

● 刊行概要

体裁—B5判・B4判・上製布クロス箱入

推薦—大原緑峯・小松隆二・玉川信明・向井 孝

解説—遠藤 斌・大原緑峯・小松隆二・杉藤二郎・三原容子・向井 孝 他

定価—揃定価 180000 円（分売不可）

配本—第1回配本（1巻～3巻）7月 80000円

第2回配本（4巻～7巻）9月 80000円

第3回配本（8巻+別冊）10月 20000円

販売方法—ご注文は下記の取扱店、又は直接 小社までお申込み下さい。

※刊行が当初の予定よりも遅れましたことをお詫び申し上げます。

◎ 好評既刊図書

● 女性アナキストたちの雑誌＜復刻版＞

高群逸枝主宰 **婦人戦線** 全16冊

平塚らいてうが第二「青鞥」とよんだ本誌は、婦人解放の旗手高群逸枝が主宰し、昭和5年に創刊した。当時の婦人運動や社会運動、思想の流れを知る上で重要な資料。

■ 無産婦人芸術聯盟編 体裁—A5判・函入／揃定価16000円

● 今日の朝鮮史研究をリードする論文を多数所載＜復刻・合本版＞

朝鮮史研究会論文集 全4巻（第1集～第20集）

戦後日本における朝鮮史研究の発展に多大な影響を与えてきた雑誌で、今回品切れの多かった、創刊号より第20集までを所収。専門の研究者はもとより、これから朝鮮史を学ぶ人の必読書。

■ 朝鮮史研究会編 体裁—A5判・上製・各巻約1000頁／揃定価5万円

● 二宮尊徳生誕200年記念出版＜増補改訂版＞

報徳運動100年のあゆみ

大日本報徳社の歴史は明治維新以後の日本近現代史に大きな足跡を残した。二宮尊徳の思想（報徳哲学）を基礎にもつ報徳社の歴史は、特に東日本を中心とする近代日本農村の歴史を映し出している。

■ 八木繁樹著 体裁—B5判・上製・総約1350頁／定価5万円

● 近代日本の植民地史研究に不可欠の基本資料＜残部僅少＞

台湾総督府警察沿革誌 全5巻

今日現存する原書は数冊しかないと言われる非公開極秘資料の完全復刻版。日帝統治下台湾の政治・社会運動史研究にとって、「台湾民報」に並ぶ必須の極秘資料。

■ 台湾総督府警務局編 体裁—A5判・上製／揃定価14万円

◎ お申込みは

緑蔭書房

〒173 板橋区板橋1-13-1 第3オリモビル
TEL03-579-5444

取扱店